

令和6年度 三田市障害者総合相談窓口「きいてネット」 事業報告

1. 総括

今年度も引き続き若年層（10代～20代）の相談が増加している、また相談内容としては不登校、ひきこもり、借金、親子関係や家族関係などさまざまな問題が重複しており、緊急で分離しないといけないようなケースも増えているが、しかしながら三田市では緊急時の受け入れ先の資源が乏しく、やむなく近隣市町の事業所に頼っている現状にある。また、自立したいという障害者の方やひきこもりの相談があってもまずは短期間お試して家族から離れて過ごしてみる、一人暮らしを体験できるような場所がなく、自立支援を妨げている状況にある。

地域生活支援拠点等の「体験の機会・場」の未整備について、福祉施設やグループホームだけではなく、福祉の域を越えて地域全体の課題であると認識しています。このことから、引き続き課題について検証をおこない、他市の事例等を参考に整備に向けて取り組みを進めてまいります。

2. 全体としての取り組み

- ・総合的・専門的な相談の実施
- ・関係機関との連携（児童や介護保険、医療、司法、権利擁護支援センターなど）
- ・きいてネット会議（毎週火曜日ケースの共有、運営についての協議等）
- ・きいてネット窓口の周知・啓発（公式ラインやインスタグラムの活用等）
- ・居場所の企画や運営
- ・事務局会議

3. 各センターからの成果と課題

○障害者基幹相談支援センター

基幹の役割として大きな柱となる、「人材の育成」と「地域づくり」に加え、強度行動障害者に対応できる事業所や社会資源が乏しいといった課題について取り組むため、「強度行動障害者支援事業所連絡会」を8月より毎月開催した。

○障害者生活支援センター

11月に障害者週間啓発イベントを実施した。来場者およそ400名と大盛況だった。障害があるなしに関わらず、お互いを知り尊重することで差別のない共生社会の実現に向けてみんなで楽しめるイベントを来年度も企画していきたい。

○障害者就業支援センター

法改正により障害者の就労に関する制度は広がったが、まだ受け入れ企業が少なく、実際には制度に追いついてない状況である。本年度は在勤者の定着支援が多く、中には労務に関する内容の相談もあり、相談内容の幅が広がってきた。また、課題のある企業へ集中的に訪問を行った。引き続き啓発と障害理解に取り組んでいく。

○精神障害者支援センター

- ・他の相談支援事業所の相談支援専門員や関係機関からの相談が増えている。精神疾患のある親の子どもを支援する家庭児童相談室からの相談が引き続きある。
- ・未受診や治療中断の状態にある人の精神科受診やひきこもりの領域など保健の領域に関する相談がある。
- ・精神保健福祉法の改正に伴い、精神科病院と相談支援事業所の連携についてのワーキンググループを開催、とりまとめを作成した。